# 向陵広場

発行号　第21号
発行日　平成29年11月16日（木）
発行元　向陵編集校友会
責任者　伊藤有司（県10回卒）


## 豊商同窓会初代会長　磯　村　弥　八（私商16回卒）大正13年3月卒

磯村　弥八 氏

昭和27年2月2日　豊商同窓会発会式を挙行した
同窓会会員は以下の卒業生、各関係学校新旧職員により構成されている。
私立豊橋商業学校、豊橋市立商業学校、豊橋市立女子商業専修学校、豊橋市立女子商業学校、豊橋商業高等学校、愛知県立豊橋東高等学校商業課程及び愛知県立豊橋商業高等学校の卒業生並びに本会の趣旨に賛同する者を以って正会員とし各関係学校新旧職員は特別会員とする。

### 豊橋経済界の重鎮

磯村弥八氏は二代目弥八を襲名するまでは、新三であった。新三は下地の肥料商桝屋の長男として明治40年1月に生まれた。幼い頃から大変、感の良い子で祖父が碁をうつそばで見ているうちに、自然に覚えてしまった。祖父が負けると祖父のかわりに客人をうち負かしてしまった。客人は舌をまいて、この子が大きくなったら、すばらしい人になるだろうと感心した。

大正8年新三は「商売人の子は商業に入る」と決意し、私立豊橋商業の門をくぐった。入学記念に買ってもらったカメラを珍しいあまりに学校に持っていったら先生に叱られた。当時の豊橋商業の訓育は厳しく登校途中にゲートルがほどけても、先生や上級生に挨拶を忘れても説諭や謹慎処分となるほどの質実剛健な校風だった。

やがて庭球部に入って青春の情熱をグラウンドにぶつけた。帰校途中下地堤防にあった“お福餅”によって大福やだんご食べるのが楽しみだった。みつかれば即謹慎だが、育ち盛りの少年には、食物の魅力には勝てなかった。

とにかく勉強なんかそっちのけで運動に情熱を燃やした。対外的には豊中を意識し打倒豊中に燃えてお互い張り合った。みんな一歩も引かない自分を持っていたし意気は高く豊商生としての誇りがあった。

学校を出ると三年間の約束で名古屋の貿易商鈴木商店への見習いにいった。当時の鈴木商店は三井と肩を並べるほどの商社で一種の大企業だった。やがて家に戻り家業を継いだ。父である初代弥八は本業の飼・肥料商のかたわら、豊橋座の株を持っていたが、この芝居小屋を取り壊し、豊橋劇場という映画常設館を新改築する際に、その周辺の土地を買い増やした。現在の花田町石塚の一帯であった。

私商　第四回運動会（大正2～10年）

昭和三年の不景気の絶頂の頃であったが、それでも当時の金で28万円投じた。そしてここに現在のショッピングセンターの原型ともいえる「レンバイ」（廉売市場）を建てた。こうした市場は当時の流行で市内のあちこちにできていた。

昭和60年12月13日、78歳の生涯を終えられた。　　（豊商の群像Ⅰ　以信会の人々より抜粋）